

外海歴史民俗資料館

1982年に開館したこの資料館は、外海地区の歴史や人々、文化を紹介しています。展示物は大きく3つのカテゴリに分かれています。最初のカテゴリは、この地域の伝統的な漁業や農業と、19世紀後期から20世紀初期にかけてこの教区を指導した起業家精神あふれるフランス人司祭マルコ・ド・ロ神父がもたらした地域の発展に関する展示です。第2のカテゴリは、この地域の潜伏キリシタンに関する展示です。信徒数の減少に伴って、潜伏キリシタンの子孫がロザリオ、祈りの言葉の写本、バスチャンの日繰りなどの品々をこの資料館に寄贈しました。第3のカテゴリは、近くにある生島の炭鉱に関する展示です。九州は一大産炭地地域として日本の工業化に不可欠な役割を担いました。2001年に閉山した生島は日本最後の炭鉱でした。また、館内には、この地域にある縄文時代（紀元前13,000-紀元前300）と弥生時代（紀元前300-250）の遺跡についてのコーナーもあります。